

吉澤清美先生にいただいたご縁に感謝を込めて

学部長・研究科長
今井裕之

吉澤清美先生は、1994年の関西大学の総合情報学部創設時に着任されて以来、外国語教育研究機構、外国語教育学研究科、外国語学部の全ての創設に関われ、その間、執行部や英語部会長などを長年お務めくださり、われわれが現在のような外国語学部・外国語教育学研究科に至るまでの歴史をずっと歩んでこられた、いわば道を切り開いてくださった先生のお一人です。その吉澤先生が、関西大学での28年間、それ以前の大学教員歴を含めると37年間に及ぶ研究・教育生活を経て、本年2023年3月31日をもってご退職されることに、強い寂寥感と深い敬意を抱かずにいられません。

切り開かれた道を後からついてきた者には想像できないような、機構、研究科、学部を創設した喜びとご苦勞が数多くあったに違いないと思います。どの大学でも着任時には多少の戸惑いは付き纏い、1年目はとてもストレスフルなものです。それが学部新設となると、起案し承認され創設し軌道に乗せるまで、それはもう何年にも渡って不確定・不透明・不安定な中で研究教育生活を送り続けることになります。その中であって、吉澤先生は、Waldenのご研究を起点にリーディング指導の研究へ、さらにはテストング研究へと、多岐にわたる分野で素晴らしい研究成果を発表され、さらにその研究成果を学界のみならず、関西大学の入試と教育課程の改善や、大学入試センターでの仕事に活かして社会還元されるなど、文字通りの「学の実化」を成してこられたように思われます。今の関大の入試や外国語学部のカリキュラムの質の高さと安定度を考えると、感謝してもしきれない思いです。

個人的な思い出になりますが、吉澤先生とは、2009年の夏にペンシルバニア州立大学でおこなわれたセミナーでJoan Kelly Hallの集中講座を受講した際に「同級生」として席を並べる機会に恵まれました。吉澤先生は、穏やかな表情で言葉を選びながら、鋭い論点で講師に切り込む「優等生」で、私はなるほどと相槌を打つその他の学生たちの一人でした。先生の、他者の発言とのバランスとりつつも、論旨明快で説得力あるお話を即座にまとめる切れ味鋭い発言を聞きながら、自分も見習わねばと思っていましたが、幸いにしてその4年後の2013年に関西大学に移り、同僚となることができました。あの時に皆で一緒に撮ったクラス写真を今でも時々見ては、懐しく思い出しています。

吉澤先生が切り開かれた関西大学外国語学部の道を、これからも教職員一同で守り広げたいと思います。本当に長い間ありがとうございました。